

教育に関するたけまるワークショップ  
を通じて得られたこと  
(コーディネータ報告)

小柳和喜雄(奈良教育大学)

2016年1月25日

- 趣旨

- 「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、今後の教育行政の根幹となる方針(教育大綱)の策定を進めるにあたり、市民の意見を反映させるため、「社会で生き抜く人を育てる教育のあり方について」をテーマにワークショップを実施

- 第1回

- 日時 : 平成27年10月25日(日)9時30分～12時
- 場所 : 生駒市コミュニティセンター4階 402-403
- 参加者 : 28名
- [内容]
  - コーディネーターからのアドバイス
  - グループ討議:「社会で生き抜く力」について考える
    - 「良いね」と思う人(こんな人になりたい/こんな人でありたい)はどんな人?
    - 「良いね」と思う人をワンフレーズで表すと?
  - グループ発表
  - コーディネーターからのコメント

【総合コーディネーター】 小柳和喜雄 奈良教育大学教授

【オブザーバー】市長、副市長、教育長、教育関係者

【ファシリテーター】 アルパック(株)地域計画建築研究所

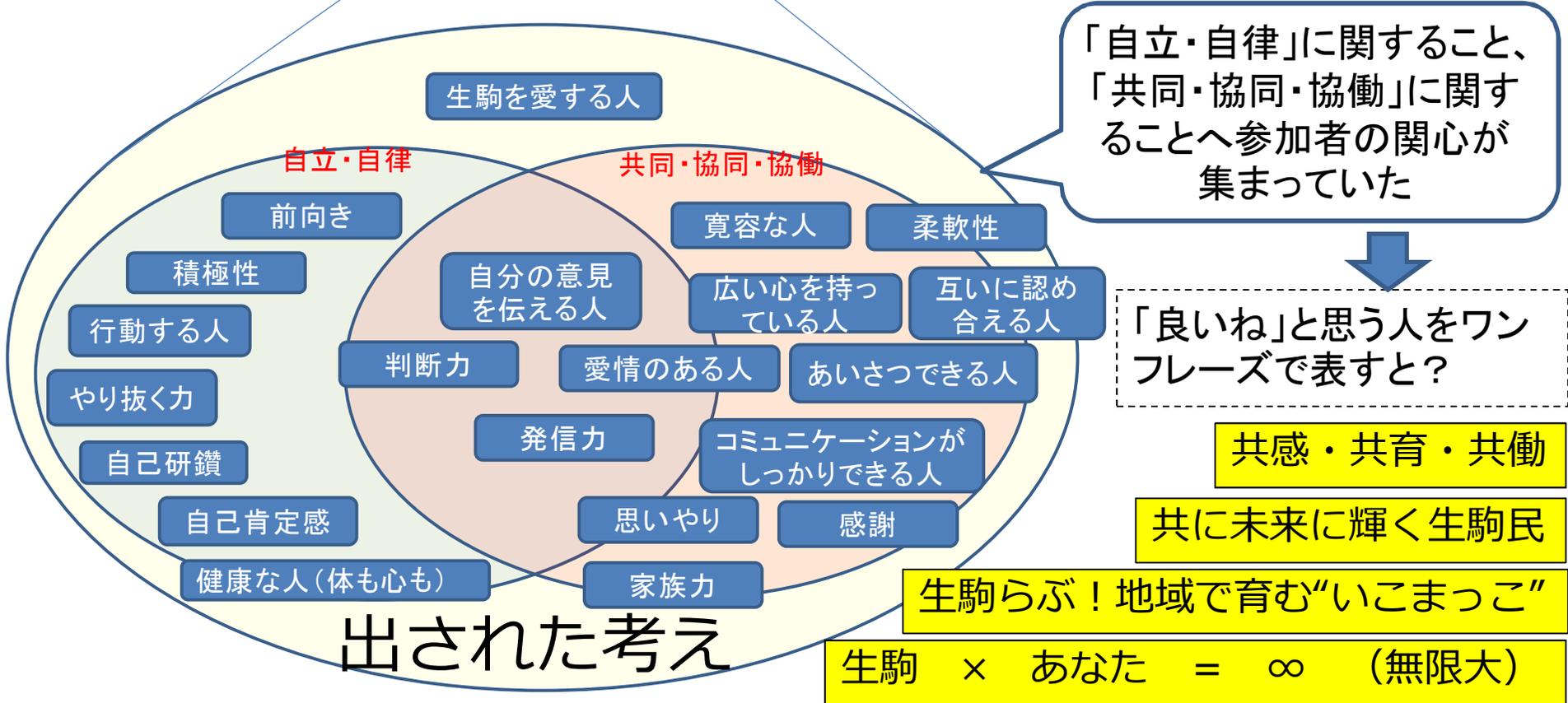
# 1 回のまとめ

「良いね」と思う人(こんな人になりたい／こんな人でありたい)はどんな人？

	短期的に	明示無し	中長期
対こと、もの	比較的間意見がでなかったところ		
対人			意見が多
対自分			かったところ

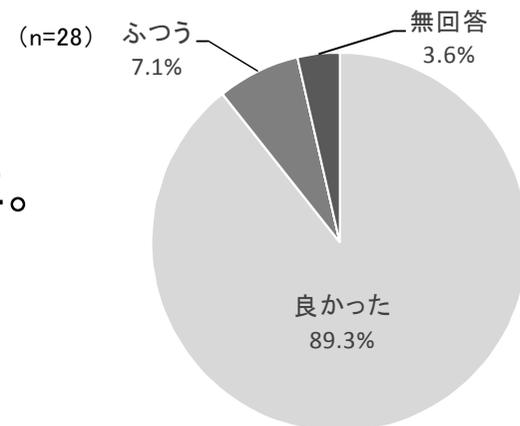
輝く人

\*「対コト・モノ」は、もっとこういう事柄を知っておいた方がよいといったこと、「対ヒト」はヒトとの関わりやコミュニケーションに関すること、「対自」は自分をどう磨いていくかに関すること



# おさえておくべき声（振り返りシートから抜粋）

- 子どもがついてくる仕組みを大人が小さいことから「しくみ」を作りたいと思う。人を育てる事が大事。相手の身になることが出来る人に気配りの出来る人に。
- 理念をいくらきれいな言葉で言っても(作っても)共感が得られないと人は動かない。
- 体制を作るまえに、しっかりと仕組みを作る。何かを成すにはまず「人」から。将来「個」の時代になるので「集団」としての(中での)あり方が重要になる。
- 言い残したこと
  - 学びを行動に移すプロセスをどう構築するか
  - みんなが「生駒市民」で良かったと思える一石になればよいなと思っています。
  - 国際化の時代に広く対応できる子どもを育てる。
  - 地域の方と学校をつなぐシステムをより充実していく必要があると感じました(学校ボランティアの充実、拡充)。放課後学習を地域の方々、学校でする。キャリア教育に携わってもらうなど、地域との連携が今後より一層重要になると思います。



## • 第2回

– 日時 : 平成27年11月7日(土)9時30分～12時

– 場所 : 市役所4階 大会議室

– 参加者 : 27名

– [内容]

- コーディネーターからのアドバイス

- グループ討議:「生駒市の教育のあり方」について考える

- 生駒の未来予想～10年後の生駒はどんな人が暮らすどんなまちになっているのか?～

- 生駒市民(いこまびと)を目指して、どう学び合えばよいのか、どう学ばせるか?

- どのようなことを学ぶべきか・身につけるべきか?

- どのような場面(場所)、どのような手段・方法で学ぶべきか?

- グループ発表

- コーディネーターからのコメント

【総合コーディネーター】 小柳和喜雄 奈良教育大学教授

【オブザーバー】

市長、副市長、教育長、教育関係者

【ファシリテーター】

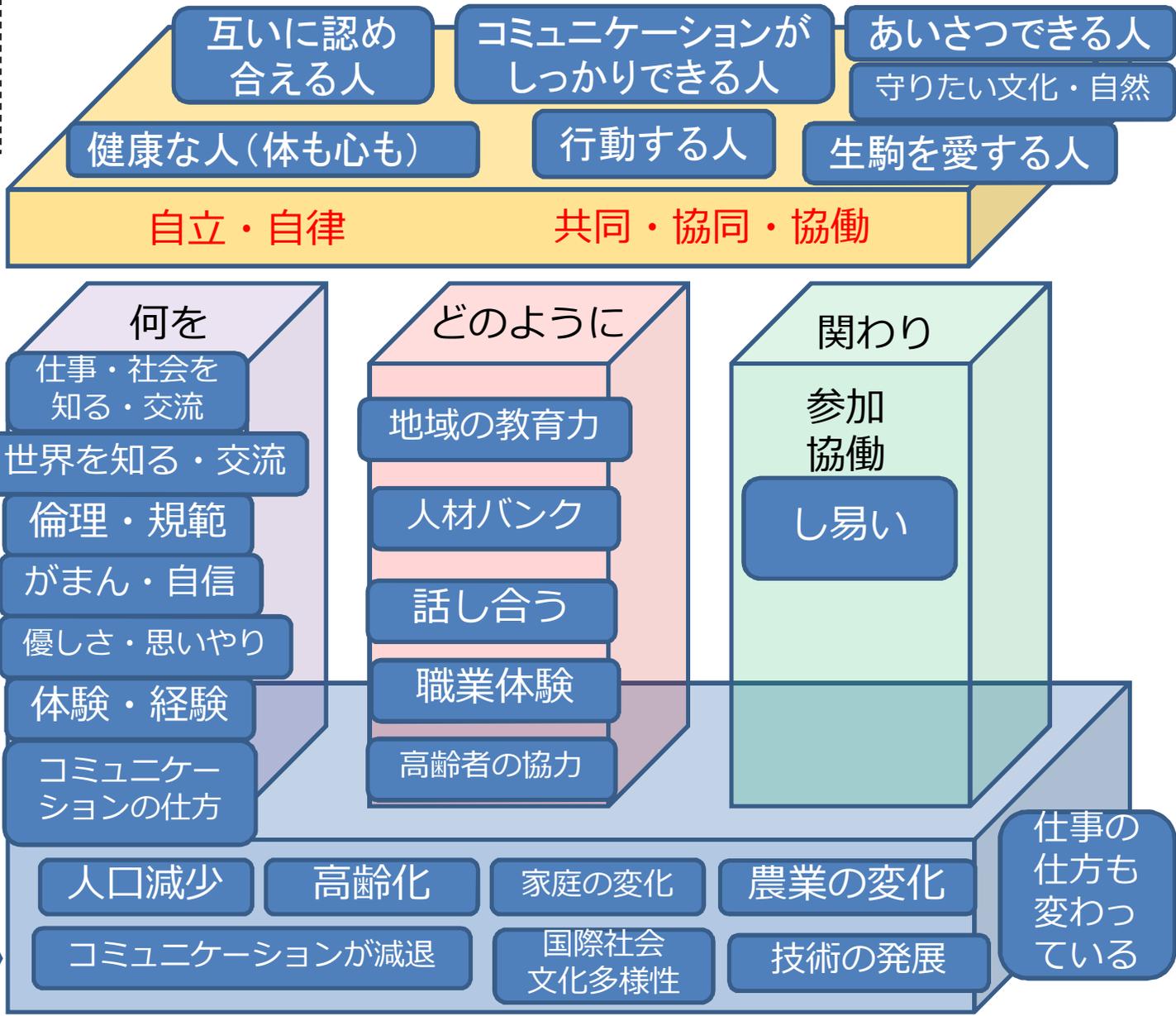
アルパック(株)地域計画建築研究所

10年後にこうありたい。こうなりたい。必要。

- ・子育てがし易い生駒
- ・地域のカ・町の人々の力を高めていこうとする生駒

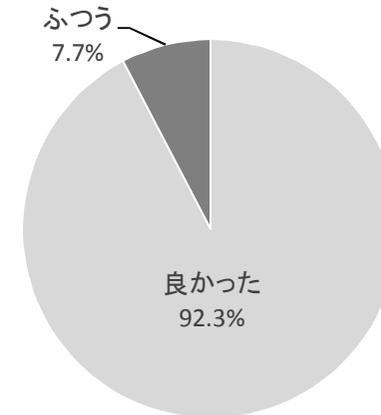
戻って来たくなる生駒に向けて

予想される10年後の生駒の姿



# おさえておくべき声 (振り返りシートから抜粋)

(n=26)



## • 心に残ったこと

- 異文化にふれる機会を多く持つこと。

そのために海外で学ぶ子を増やすことと、進歩的な考えにうれしかった。10年後の生駒市を考える機会を持つことができて良かった。

- 生駒に戻ってきたくなるような街づくりという言葉が印象に残りました。「まちづくりとは人づくり」とはこういうことだと感じました。

- 間違ふことが恥ずかしい、ダメという考えが日本人にはある。海外では席が前から埋まるとか、日本の教育を大きく改革しなければいけないと思った。また、広報を見ている人というのは生駒について関心があるし、そのような人を大切にしつつ広げていきたいと思った。

## • 今後心がけること

- 生駒の伝統・文化をもっと深く知り、発進できる事の手助けができる機会があれば参加したい。伝統産業・新しい産業 (ICTも含め) 人が集まる生駒に自分なりに貢献できればと思う。

- 地域活動(貢献活動)にさらに力を入れていきたいと思いました。子どもは未来社会の宝物です

# まとめにかえて：今後の教育行政の根幹となる方針 (教育大綱)の策定編の参考意見となるワークショップ 参加者の意見はどのようであったか？

- 10年後の生駒の姿の想定
  - 高齢化や国際化が進み、人口だけでなく、家庭や技術、農業なども変化し、コミュニケーションが減退していると予想される
- それに対して「戻ってきたくなる生駒」を目指す
- そして1回目のワーク結果も受けて、「共同・協同・協働」や「自立・自律」ができる生駒市民が暮らすまちを考える
- 方法
  - 「何を学ぶのか」「仕事・社会」「世界」「倫理・規範」「人の体験」「コミュニケーション」などが主だった意見
  - 「どのようにして学ぶのか」「地域の教育力」「人材バンク」「活かしよう」「職業体験」「高齢者」などがキーワード
  - 「関り方」、前提として参加・協働は大事であるが、それを求めているだけではうまくいかない参加・協働が“し易い”ことが重要。つまり敷居が高くなると実現性が厳しくなる。
- その他
  - 「戻って来たいまち」「ともに生きる」という発想は大切
  - 「今日考えて、明日直そう」という考え方が大事
  - 解釈の転換を得るには、「交わること」が重要